

2024 年卒
Vol. 5

3月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2024 学生モニター調査結果 (2023年3月発行)

2024年卒の採用広報が3月1日に解禁され、本格的な就活シーズンが始まった。企業の採用意欲が一層高まる中で、就活生たちはどのようなスタートを切っただろうか。キャリアス就活・学生モニターを対象に、解禁直後の就職活動状況や意識について調査を行った。

1. 3月1日時点の志望業界と志望職種

- 志望業界1位「インターネットサービス」、2位「情報処理・ソフトウェア」。IT人気続く
- 志望職種は、文系「営業系」「企画系」、理系「研究・開発系」が上位

2. エントリー状況

- 一人あたりのエントリー社数は平均19.1社。前年同期調査(19.6社)より微減
- 今後の予定社数の平均は10.7社。前年同期調査(11.6社)を下回る

3. セミナー・会社説明会の参加状況

- 参加社数の平均は、オンライン形式9.6社、会場型/対面3.4社
- 参加したいセミナーは、形式によらず「社員と話せる」「選考情報が得られる」が上位

4. 企業研究を行う上で知りたい情報

- 「実際の仕事内容」が最多。「社風」「給与水準・平均年収」「他社と比べた強み・弱み」が続く

5. 選考試験の受験状況

- ES提出者は8割(82.9%)、面接試験受験者は7割(72.0%)。前年よりさらに増加
- ES提出社数は平均5.9社。前年(6.3社)を下回る。筆記、面接は前年並み

6. 3月1日現在の内定状況

- 内定率は32.4%。前年同期実績(28.6%)を3.8ポイント上回る
- 内定企業の7割強(73.9%)が「インターンシップ等[※]参加企業」

7. 就職活動の終了希望時期

- 最も多いのは「6月下旬」(18.2%)で、前年調査(15.7%)より増加

8. 企業選びにおける初任給引き上げの影響

- 意識する学生が全体の76.7%。「受ける企業を選ぶ際」39.7%、「就職先決定時」49.9%

※「インターンシップ(就業体験を伴う複数日程のプログラム)」に限定せず、1日以内のプログラムも含めて調査
※「内定」には、内々定を含む

調査概要

- 調査対象 : 2024年3月に卒業予定の大学3年生(理系は大学院修士課程1年生含む)
回答者数 : 1,264人(文系男子384人、文系女子408人、理系男子318人、理系女子154人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2023年3月1日~6日
サンプリング : キャリタス就活2024学生モニター

1. 3月1日時点の志望業界と志望職種

まず、解禁時点でどのような業界を志望しているのかを確認したい。

現時点で志望業界を「決めている」学生は90.1%。2月調査では82.6%だったので、この1カ月で7.5ポイント増加した。

「決めている」と回答した学生に具体的な業界を尋ねると(40業界から5つまで選択)、「情報・インターネットサービス」(18.3%)が最も多かった。次いで「情報処理・ソフトウェア」(16.9%)が続き、IT業界が根強い人気を呈している。属性によらず上位に挙がっているのが特徴的。

文理別に見ると、文系は「銀行」の順位が高く、男子で1位、女子で2位。文系女子の1位は「マスコミ」。理系はメーカーとITが上位を占める。理系男子は「電子・電機」が1位で、「情報処理・ソフトウェア」が2位。理系女子は「水産・食品」「素材・化学」「医薬品・化粧品」の順。

<志望業界の決定状況>

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
決めている	90.1	89.6	87.2	88.7	94.3	92.2
決めていない	9.9	10.4	12.8	11.3	5.7	7.8

<志望業界(上位20業界)>

全 体		文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	情報・インターネットサービス ② 18.3	銀行 22.4	マスコミ 19.1	電子・電機 26.3	水産・食品 27.5
2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ① 16.9	情報・インターネットサービス 20.9	銀行 18.2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 20.0	素材・化学 22.5
3	銀行 ⑤ 14.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 20.3	情報・インターネットサービス 16.9	自動車・輸送用機器 19.7	医薬品・医療関連・化粧品 20.4
4	水産・食品 ③ 13.7	調査・コンサルティング 16.4	水産・食品 14.6	情報・インターネットサービス 19.0	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 18.3
5	建設・住宅・不動産 ⑤ 13.1	運輸・倉庫 15.5	商社(専門) 14.1	素材・化学 16.3	情報・インターネットサービス 14.8
6	調査・コンサルタント ⑦ 12.3	商社(総合) 14.0	官公庁・団体 14.1	機械・プラントエンジニアリング 16.0	建設・住宅・不動産 12.0
8	電子・電機 ⑧ 12.3	官公庁・団体 13.1	商社(総合) 13.0	建設・住宅・不動産 15.0	官公庁・団体 10.6
9	官公庁・団体 ⑨ 11.2	建設・住宅・不動産 12.5	建設・住宅・不動産 12.4	精密機器・医療用機器 14.0	精密機器・医療用機器 9.9
10	素材・化学 ④ 10.9	エネルギー 11.0	調査・コンサルタント 11.0	エネルギー 13.3	電子・電機 9.2
11	マスコミ ⑭ 10.0	マスコミ 9.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 10.8	水産・食品 12.7	調査・コンサルタント 8.5
12	自動車・輸送用機器 ⑫ 9.9	商社(専門) 9.6	ホテル・旅行 10.5	調査・コンサルタント 11.0	機械・プラントエンジニアリング 7.0
13	運輸・倉庫 ⑮ 9.9	保険 9.6	運輸・倉庫 9.1	医薬品・医療関連・化粧品 10.7	自動車・輸送用機器 5.6
14	エネルギー ⑫ 9.8	通信関連 8.7	人材サービス・人材紹介・人材派遣 8.6	通信関連 8.3	農業・林業・鉱業 5.6
15	商社(総合) ⑰ 9.5	電子・電機 8.1	保険 8.3	運輸・倉庫 8.0	通信関連 4.9
16	医薬品・医療関連・化粧品 ⑩ 8.7	人材サービス・人材紹介・人材派遣 8.1	教育 8.3	農業・林業・鉱業 6.7	銀行 4.2
17	商社(専門) ⑪ 8.7	水産・食品 7.8	エネルギー 8.0	銀行 5.7	マスコミ 4.2
18	機械・プラントエンジニアリング ⑯ 8.2	自動車・輸送用機器 7.8	エンターテインメント 8.0	官公庁・団体 5.7	エネルギー 4.2
19	通信関連 ⑩ 7.3	機械・プラントエンジニアリング 7.8	信用金庫・労働金庫・信用組合 7.7	鉄鋼・非鉄・金属製品 5.3	商社(専門) 4.2
20	精密機器・医療用機器 ⑱ 7.3	証券・投信・投資顧問 7.5	医薬品・医療関連・化粧品 7.2	商社(総合) 4.3	エンターテインメント 4.2
21	保険 ⑳ 6.1	リース・レンタル 7.2	その他サービス 6.6	エンターテインメント 3.7	その他サービス 4.2
				OA機器・家具・スポーツ・玩具他 3.7	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 4.2

※○の中の数字は前年同調査の全体順位

※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

次に、職種についても確認したい。志望する職種を 11 職種から 3 つまで選んでもらった。

文系で上位に来るのは「営業系」「企画・マーケティング系」「事務・管理系」の 3 職種。いずれも 4 割を超えるが、特に文系男子においては過半数が「営業系」を挙げている (54.8%)。理系は「研究・開発・設計」に集中しており、男女とも約半数が選んだ (理系男子 50.4%、理系女子 46.5%)。次いで 2 位に「IT 系」が 3 割台で続く。「IT 系」は文系では 4 位に入っている。

＜志望職種＞

※3つまで選択 (%)

文系男子		文系女子		理系男子		理系女子	
1	営業系 54.8	1	企画・マーケティング系 48.9	1	研究・開発・設計系 50.4	1	研究・開発・設計系 46.5
2	企画・マーケティング系 45.2	2	営業系 47.3	2	IT系 33.5	2	IT系 31.0
3	事務・管理系 40.1	3	事務・管理系 47.0	3	生産・製造・品質管理系 31.3	3	生産・製造・品質管理系 25.6
4	IT系 27.1	4	IT系 16.6	4	企画・マーケティング系 17.6	4	企画・マーケティング系 16.3
5	専門・スペシャリスト系 12.7	5	クリエイティブ系 13.8	5	専門・スペシャリスト系 11.9	5	事務・管理系 11.6
6	金融系 11.3	6	専門・スペシャリスト系 12.9	6	営業系 11.5		建築・土木設計系 11.6
7	サービス・販売系 8.6	7	サービス・販売系 12.2	7	建築・土木設計系 8.6	7	専門・スペシャリスト系 8.5
8	クリエイティブ系 7.9	8	金融系 6.9	8	クリエイティブ系 8.3	8	営業系 7.8
9	生産・製造・品質管理系 5.1	9	生産・製造・品質管理系 1.3	9	事務・管理系 7.2	9	サービス・販売系 3.1
10	研究・開発・設計系 0.7	10	研究・開発・設計系 0.3	10	金融系 5.8	10	金融系 2.3
	建築・土木設計系 0.7		建築・土木設計系 0.3	11	サービス・販売系 4.7	11	クリエイティブ系 0.8

※職種分類は「キャリアス就活」の分類に準じる

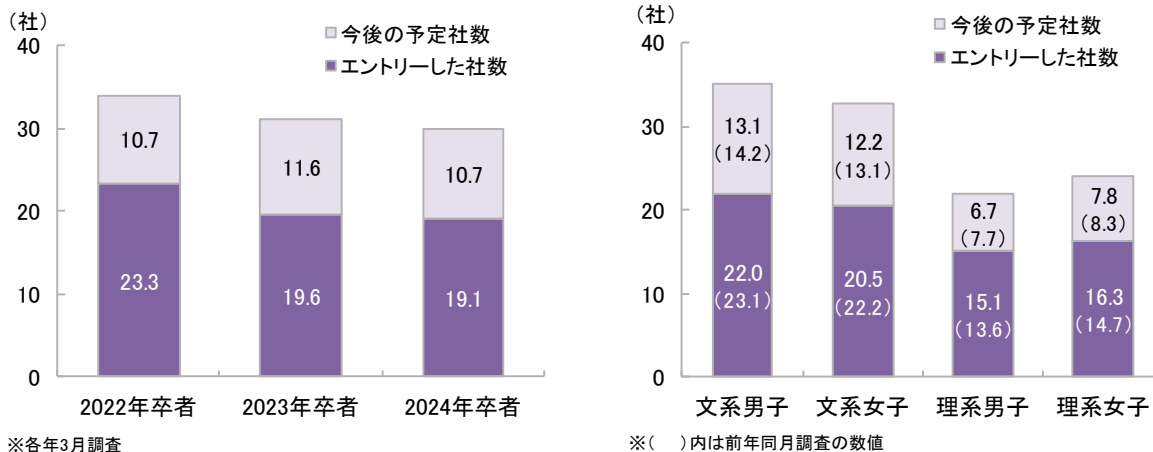
2. エントリー状況

3月1日時点のエントリー状況と、今後の予定社数を尋ねた。

一人あたりのエントリー社数の平均は 19.1 社で、前年同期実績 (19.6 社) から微減した。今後のエントリー予定社数は平均 10.7 社で、同様に前年調査 (11.6 社) を下回る。早い時期に接点を持った企業の選考が先に進んでいることで (7 ページ)、視野を広げる必要性は薄くなり、エントリー企業の絞り込みに繋がっていると考えられる。

これを文理男女別に確認すると、文系は理系に比べ社数自体は多いが、男女ともに前年実績に届かず、今後の予定数も前年調査を下回る。

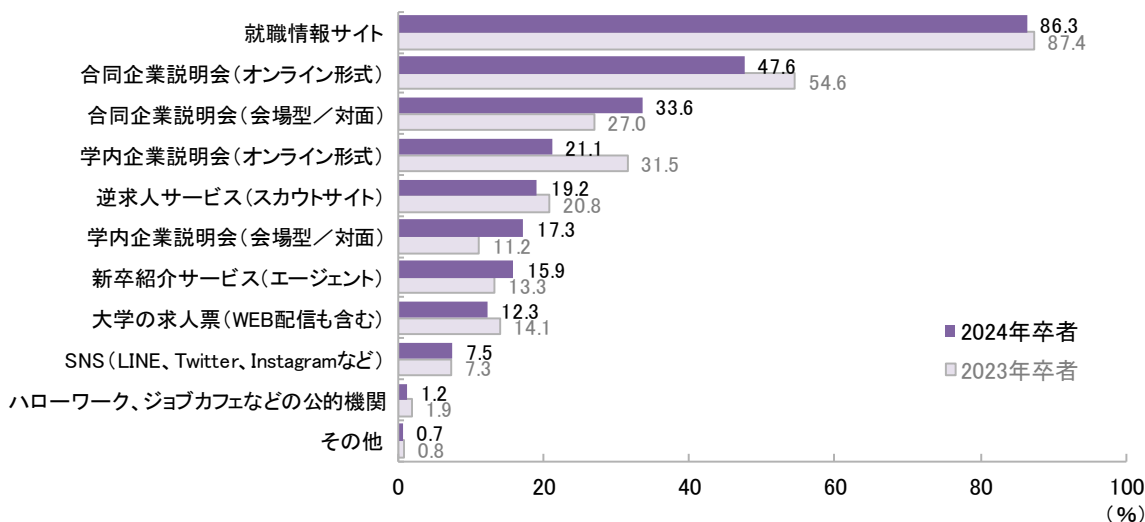
＜エントリー社数＞



今後新たな企業にエントリーを予定している学生に、企業を探す手段を尋ねた。

最も多かったのは「就職情報サイト」で、9 割近くが企業探しに活用していると回答した (86.3%)。次いで「合同企業説明会 (オンライン形式)」(47.6%)、「合同企業説明会 (会場型/対面)」(33.6%)、と続く。移動の時間や交通費などのコストがかからないオンライン形式を中心に、今年は対面でも情報収集や企業探しを進めたいと考えている学生が多いことがわかる。

＜新たな企業を探す手段＞

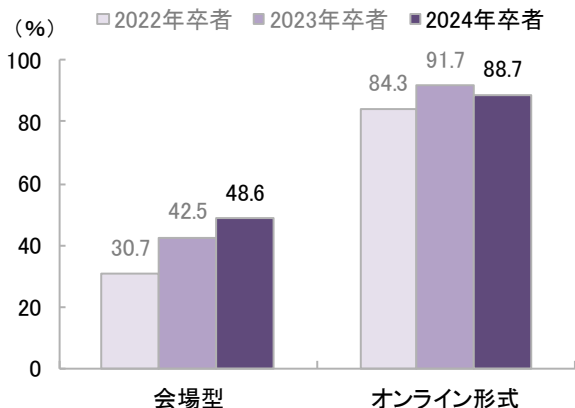


3. セミナー・会社説明会の参加状況

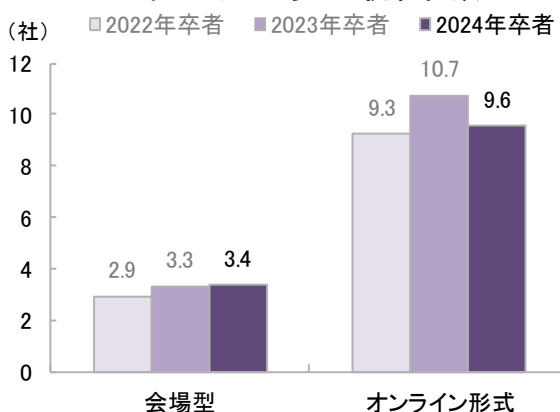
会社説明会 (個別企業のセミナー) の参加状況を、開催形式ごとに確認した。コロナ禍により大きく減少した「会場型」への参加が徐々に戻り、約5割 (48.6%) に上っている。ただ、依然として「オンライン形式 (WEBセミナー)」が中心で、全体の約9割 (88.7%) が参加経験を持つ。参加 (視聴) 社数は、会場型で平均3.4社、オンライン形式での視聴が平均9.6社。

今後の参加予定社数について尋ねたところ、全体の平均は7.1社。前年調査 (8.0社) を下回る。

＜企業セミナー 参加・視聴経験＞



＜企業セミナー 参加・視聴社数＞



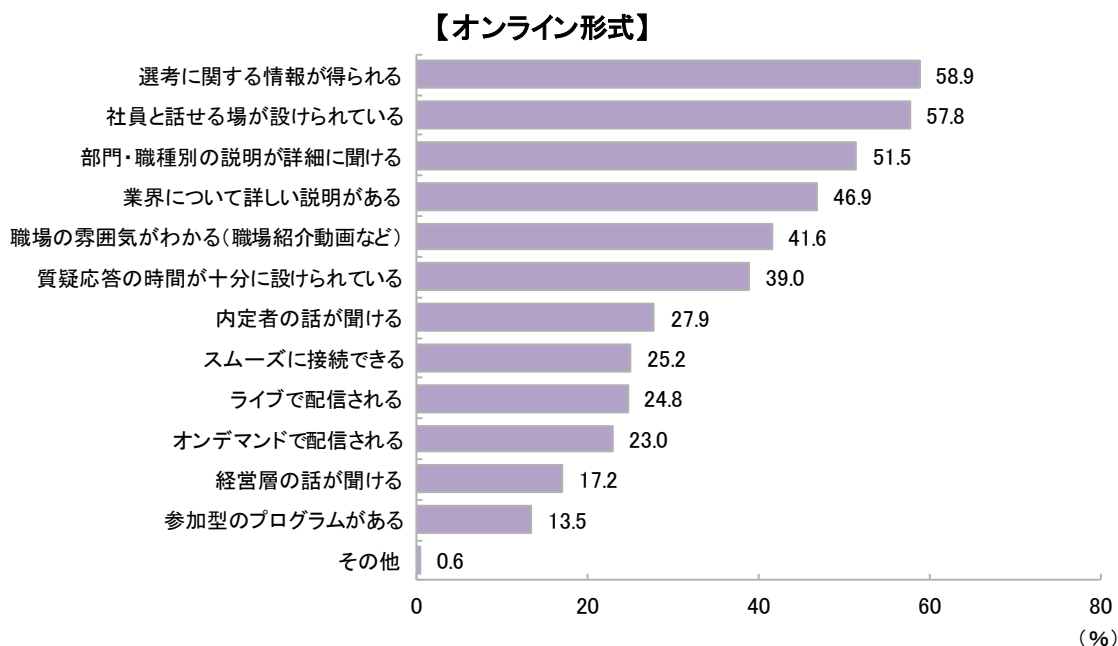
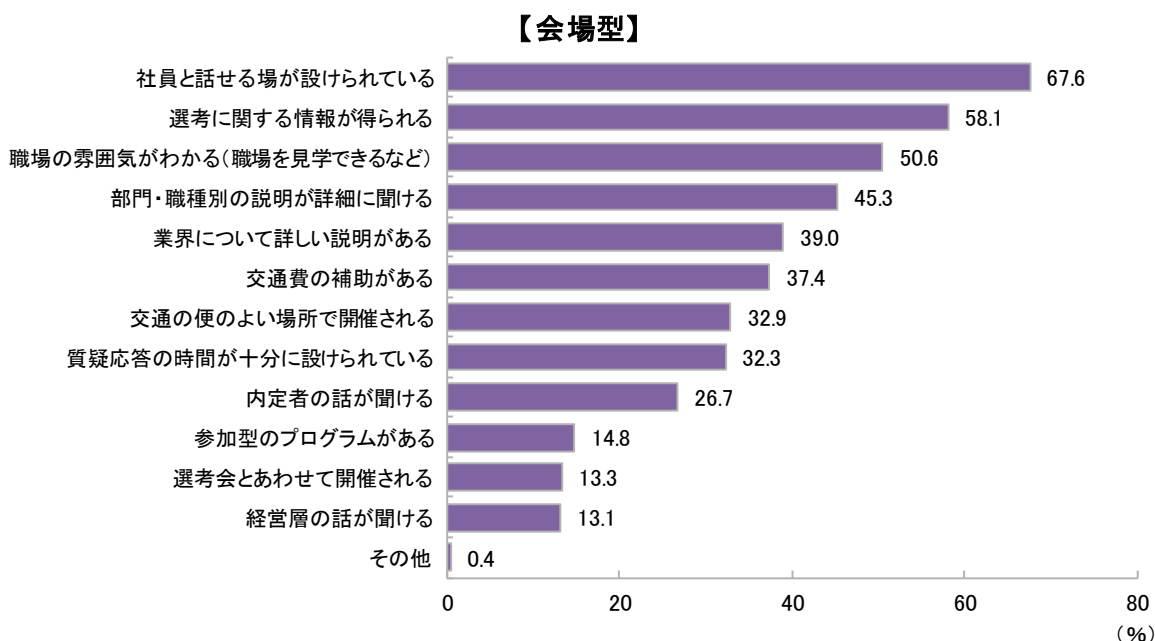
＜企業セミナー参加・視聴社数(属性別)＞

	(社)					
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
会場型参加社数	3.4	3.3	3.9	3.3	3.0	3.0
オンライン形式視聴社数	9.6	10.7	10.4	9.9	8.4	8.9
今後の参加予定社数	7.1	8.0	7.7	8.7	4.7	5.6

どのような内容の企業セミナーに参加したいかを、形式別に尋ねた。会場型で最も多いのは「社員と話せる場が設けられている」で、7割近く (67.6%) に上る。オンライン形式 (57.8%) より約10ポイント多く、対面で直に社員と話したいと考える学生が多いことがわかる。また、「選考に関する情報が得られる」は、形式を問わず6割近くが選び、選考フローやスケジュールなどの情報を学生が求めていることが読み取れる。

「職場の雰囲気がわかる (職場を見学できるなど)」が会場型の3位で、過半数が選んだ (50.6%)。実際に会社に足を運ぶことで、社風を感じ取ったり、働く姿をイメージしたりしたいのだろう。オンライン形式でも、「職場の雰囲気がわかる (職場紹介動画など)」は4割の学生が選んでおり (41.6%)、オンラインであっても職場の雰囲気を知りたいと考える学生は少なくない。

＜参加したいと思う企業セミナー（形式別）＞

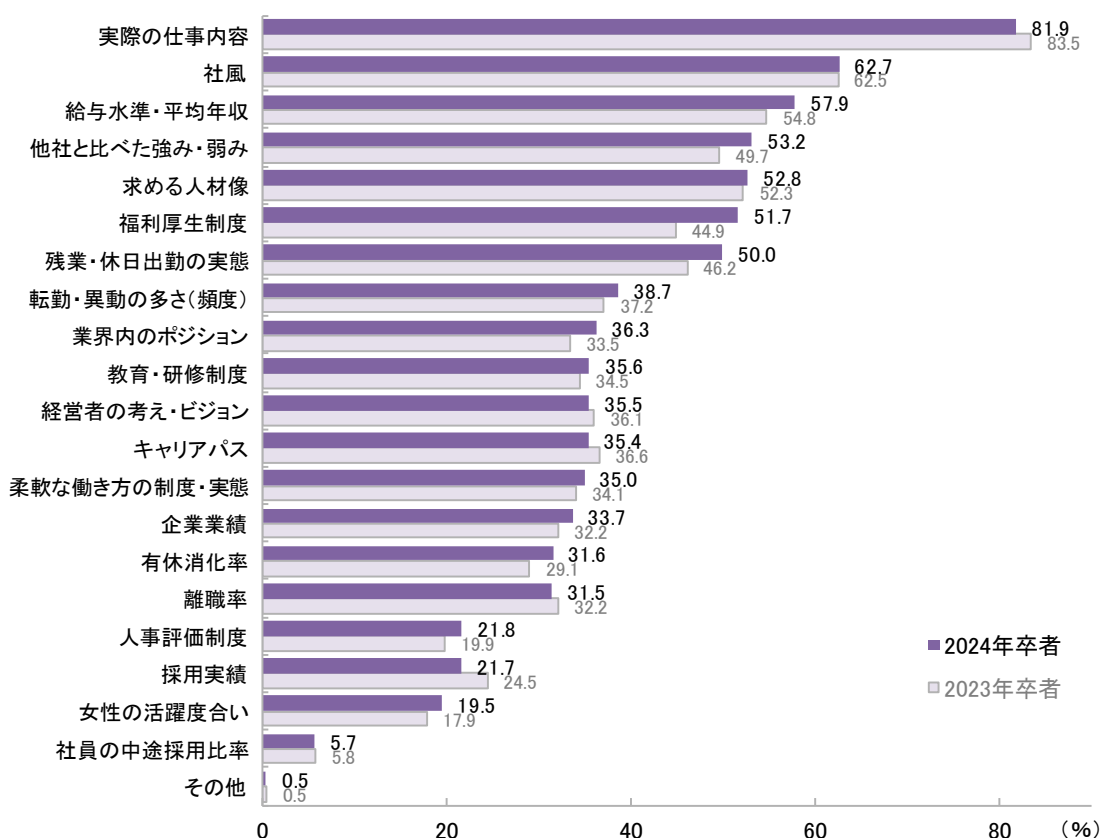


4. 企業研究を行う上で知りたい情報

企業研究を進める上で知りたい情報を尋ねた。最も多いのは「実際の仕事内容」で、8割超(81.9%)が選び、ポイントが集中している。次いで「社風」(62.7%)が続く。先に見たように、現場社員との対話を通じて、具体的な仕事内容の理解を深めたり、社風を感じ取ったりすることで、自分に合う企業かどうか見極めたいということだろう。また、「給与水準・平均年収」「福利厚生制度」「残業・休日出勤の実態」などの条件面に加え、「他社と比べた強み・弱み」「求める人材像」などエントリーシートや面接などを見据えた項目も上位に入る。

なお、前年同期調査と比べると、「福利厚生制度」が6.8ポイント、「残業・休日出勤の実態」が3.8ポイント増加しており、働きやすい環境を求める学生が増えていることがうかがえる。

＜企業研究を行う上で知りたい情報＞



■企業研究を行う上で具体的に知りたいこと

- 具体的な業務内容、1日に何をしているのかが一番知りたい。 <文系女子>
- 大企業だと、部署ごとや年次ごとの細かい仕事内容について、具体的なイメージを持つことが難しいので、詳しく知りたい。 <文系男子>
- 長く働き続けるために、福利厚生や社内の雰囲気、社員さん同士の様子が分かると嬉しいです。 <理系女子>
- 入社後、どのくらいの期間でどのようなスキルが身につくのかを知りたい。 <理系男子>
- その企業の安定度や成長性、福利厚生を企業選びで重視しているのでそこをまず知りたい。次に社風や企業理念、社員間の仲の良さも働く上では大事だと思うので知りたい。 <文系男子>
- 他社と比較してどのような点を強みとしているのかを知りたいです。 <文系男子>
- テレワークの頻度、勤務地、転勤の有無。 <理系女子>
- 女性の働きやすさには重点を置いて企業研究をしています。 <文系女子>
- 社内の人間関係に注目しており、年次や立場に関係なく仕事に関する意見が言える環境が良い。 <理系男子>

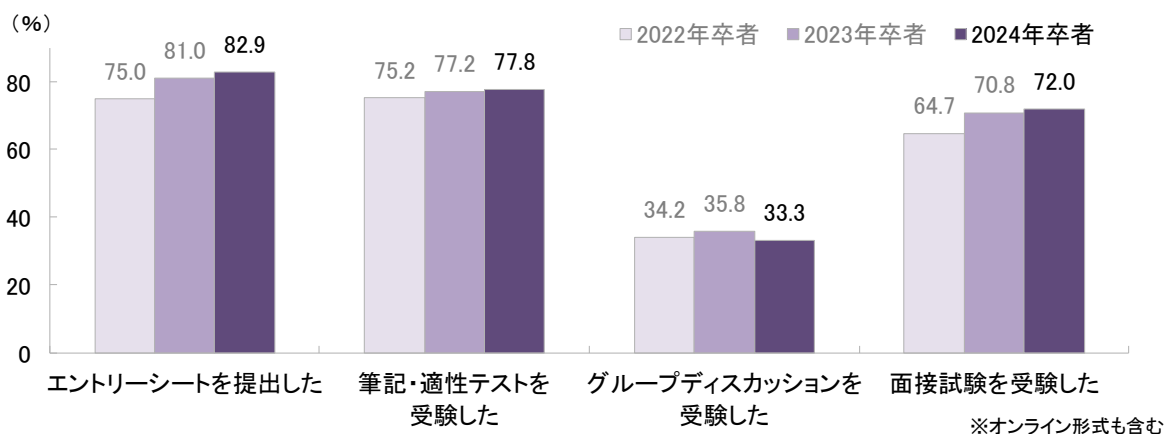
5. 選考試験の受験状況

選考試験（本選考）の受験状況を見てみよう。

エントリーシート（ES）を提出した学生は全体の 82.9% で、早くも 8 割が提出経験をもつ。前年同期調査（81.0%）よりさらに増加し、提出のタイミングが一段と早まった様子がわかる。ただし、一人あたりの提出社数は、前年同期をやや下回る（平均 6.3 社→5.9 社）。

筆記・適性テストを受験した学生は 8 割弱（77.8%）で、面接受験者が 7 割を超えるなど（72.0%）、選考受験率の増加傾向が続いている。選考時期を早める企業が増加していることが読み取れる。

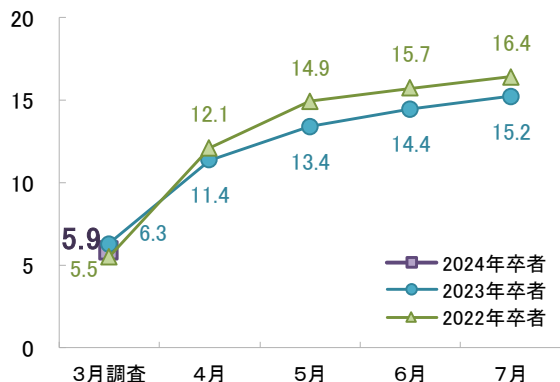
＜選考試験の受験状況＞



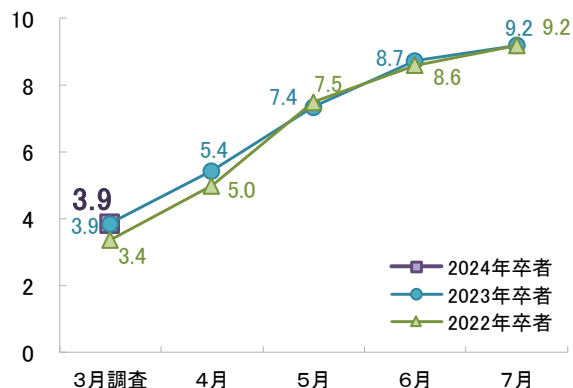
＜選考試験の受験社数＞

	(社)					
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシート	5.9	6.3	6.3	6.0	5.0	6.1
筆記・適性テスト	4.6	4.6	5.1	4.6	4.0	4.3
グループディスカッション	2.1	2.3	2.2	1.9	1.7	2.4
面接試験	3.9	3.9	4.6	3.8	3.3	3.4

【参考】＜ES提出社数の推移＞



【参考】＜面接試験受験社数の推移＞



6. 3月1日現在の内定状況

3月1日以内定を得ている学生は全体の32.4%。前回調査(23.8%、2月調査)からの1カ月間に8.6ポイント上昇し、就活解禁のタイミングで就活モニターの3割が内定を手に入れている。前年同期実績(28.6%)を3.8ポイント上回っており、現在の日程ルールが8年目を数える中で、早期化が一段と進行していることが読み取れる。内定企業の7割強(73.9%)がインターンシップ等(※)のプログラムに参加していた企業(グラフは次ページに掲載)。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは22.7%で、前年(19.0%)よりやや多いが、大半は内定を得ても就職活動を継続。モニター学生全体を分母にとると就活終了者(就職先決定)の割合は7.4%(グラフは次ページに掲載)。多くの学生にとって本番はこれからと言える。

ただ、理系学生は内定率・就職決定率ともに文系に比べ高く、終了者(就職先決定)が1割を超える(12.7%)。

(※1日以内のプログラムも含めて調査)

<3月1日現在の内定状況>

*「内定」には、内々定を含む

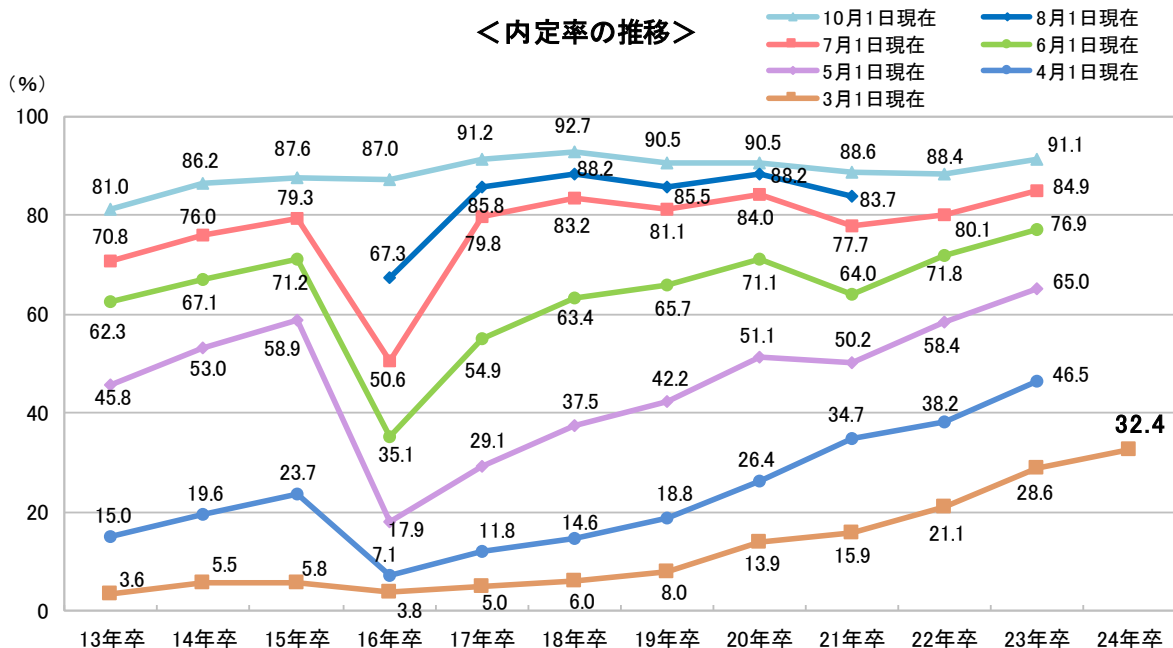
		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		32.4 (28.6)	29.7 (23.5)	28.7 (28.3)	36.5 (32.5)	40.9 (36.1)
内定なし		67.6 (71.4)	70.3 (76.5)	71.3 (71.7)	63.5 (67.5)	59.1 (63.9)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	22.7 (19.0)	15.8 (9.7)	12.8 (14.8)	37.1 (32.1)	27.0 (18.9)
	活動は終了したが複数内定保持	3.2 (2.1)	1.8 (2.9)	0.9 (3.7)	4.3 (0.0)	7.9 (1.9)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.2 (0.8)	0.0 (1.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.9)	1.6 (1.9)
	就職活動継続	73.9 (78.0)	82.5 (86.4)	86.3 (81.5)	58.6 (67.0)	63.5 (77.4)

(社)

		(社)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		1.6 (1.5)	1.6 (1.5)	1.6 (1.5)	1.6 (1.5)	1.7 (1.6)

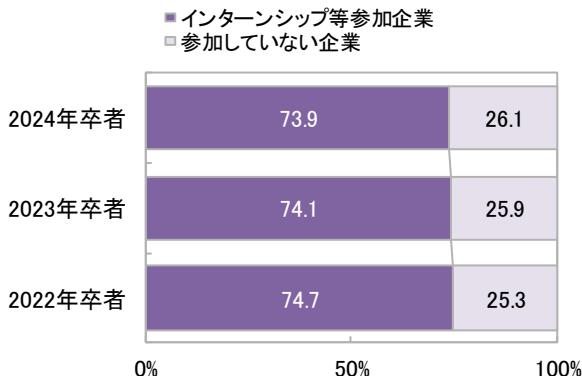
※ () 内は前年(3月1日現在)の数値

<内定率の推移>



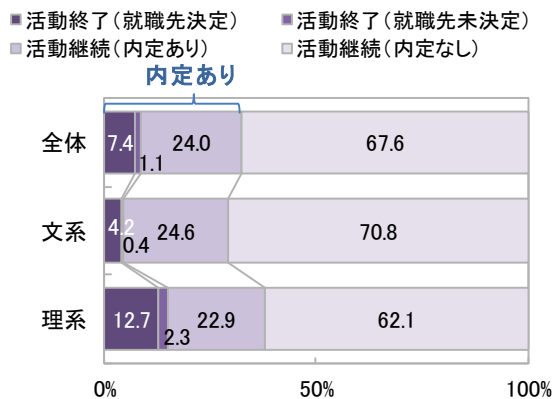
※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~24卒は6月 ※15年卒以前は8月のデータはなし

＜内定を得た企業の内訳＞



※1日以内のプログラムも含む

＜活動状況の分布＞



内定を得ている学生に内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた (全 40 業界。複数回答あり)。1 位は「情報処理・ソフトウェア」。冒頭に確認した志望業界で 2 位に挙がっており、多くの学生が志望し、実際に多くの内定が出ている様子が見て取れる。文系理系ともに 1 位で、文理問わず内定を得ている。2 位は「調査・コンサルタント」、3 位は「建設・住宅・不動産」で、上位 3 業界は前年と同順位。早期内定の多い業界の顔ぶれに変化はないようだ。

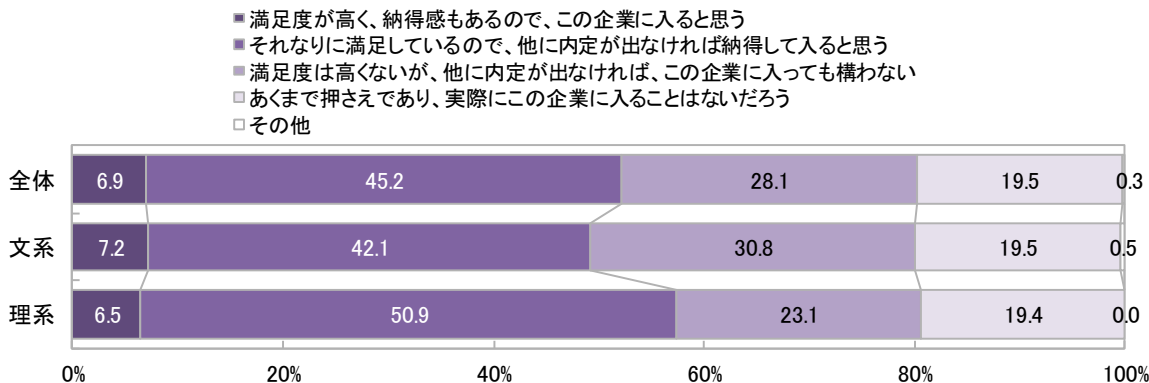
＜内定を得た業界 (上位 5 業界) ＞

	全 体 (%)	文 系 (%)	理 系 (%)
1 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ①	23.2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 22.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 23.5
2 調査・コンサルタント ②	18.5	調査・コンサルタント 20.8	電子・電機 16.8
3 建設・住宅・不動産 ③	12.2	専門店 17.3	調査・コンサルタント 15.6
4 専門店 ⑨	10.7	人材サービス・人材紹介・人材派遣 10.8	建設・住宅・不動産 15.6
5 人材サービス・人材紹介・人材派遣 ⑤	10.5	情報・インターネットサービス 10.4	素材・化学 15.6

※○の中の数字は前年同調査の全体順位

内定を持ちながら就職活動をしている学生 (全体の 24.0%) に、内定企業をどう位置づけているのかを尋ねた。「満足度が高く、納得感もあるので、この企業に入ると思う」と、ほぼ入社を決めているのは 1 割未満 (6.9%)。「それなりに満足しているので、他に内定が出なければ納得して入ると思う」という回答が 4 割強で最も多く (45.2%)、入社に前向きながらも、本命企業の結果次第という学生が多いようだ。「実際にこの企業に入ることはないだろう」は文理とも約 2 割。

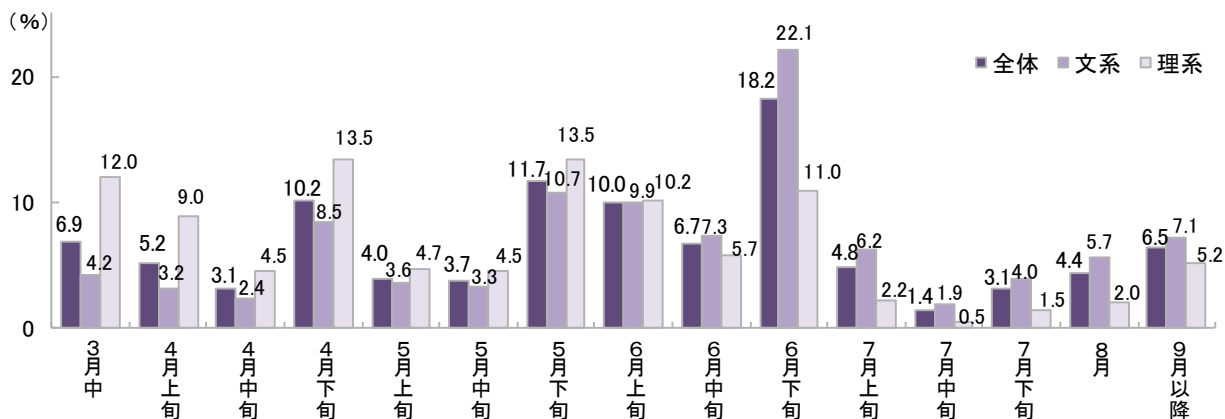
＜内定を得ている企業の位置づけ＞



7. 就職活動の終了希望時期

就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期を尋ねると、最も多いのは「6月下旬」(18.2%)で、ここまでは前年より早いペースで進捗してきているものの、選考解禁後の6月を終了時期の目安にしている学生が多いようだ。ただし、文理別で差が見られ、理系では早い時期の終了を見込む学生も多く、6割超が5月までの終了を希望している(計61.7%)。

＜就職先を決定して、就職活動を終了したい時期＞

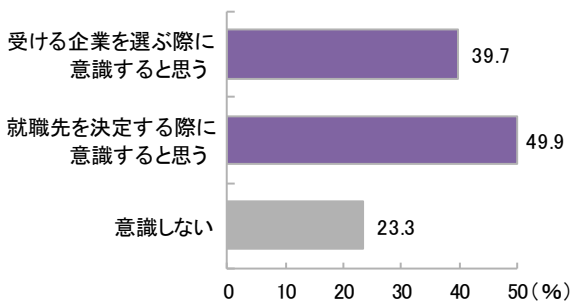


8. 企業選びにおける初任給引き上げの影響

物価上昇や採用難を背景に初任給の引き上げを行う企業が相次いでいるが、就職先企業選びに意識するかどうかを尋ねた。「意識しない」という人は23.3%で、残りの7割以上が企業選びの際に意識していると回答(76.7%)。「受ける企業を選ぶ際に意識すると思う」が約4割(39.7%)。内定を承諾するかなど「就職先を決定する際に意識すると思う」は半数に上る(49.9%)。自分の生活を安定させたいという切実な声の他、企業の財務状況や社員への姿勢を判断する材料にするという意見も少なからず見られた。

なお、男女別で差が見られ、男子の方が初期の段階で意識する割合が高く、女子は最終的な意思決定の際に意識する割合が高い。

＜企業選びにおける初任給引き上げの影響＞



	(%)	
	男子	女子
受ける企業を選ぶ際に意識する	44.0	34.3
就職先を決定する際に意識する	43.2	58.4
意識しない	26.9	18.9

■学生の声

- 物価高で生活が難しい状況になるし、奨学金もあるので、初任給から高いのはとても魅力的だと思います。 <文系女子>
- 初任給を上げられるのは、体力のある会社であると思うため財務基盤がしっかりしているか見極める材料の1つと考えています。 <文系男子>
- 初任給を上げられる会社かどうかで、人を大切にする会社かどうかがわかっている。 <理系女子>
- エントリー段階では業務内容を優先する。最終的には待遇の差で決めざるを得ない。 <理系男子>
- 新卒のうち、お金よりスキルや成長環境を重視する。ただ給料が増えることは嬉しい。 <文系男子>
- 今後の経済環境でも変わることなので、今の状態だけで判断したくない。また、初任給が上がっても生涯年収が上がるとは限らない。 <理系女子>